

1. 現行施設の既営業年度における経済波及効果推計

(1) 推計方法

現施設における経済波及効果を下記のとおり推計する。

本来、施設整備に伴う経済波及効果は整備に係る産業への波及効果を含めて試算するが、現施設の整備が21年前に遡り、物価指数が正確に算出できないことや、本推計の目的が現施設の運営における経済波及効果を把握することが目的であることから、施設整備に関する経済波及効果は推計しない。

市内における経済波及効果を見るため、狭義の経済波及効果として、①当該施設における消費額と②当該施設外での地域消費額を合わせた額を算出する。

(2) 推計の前提条件

来訪者が消費する財・サービスは、下記の通り設定した。

項目	設定方法
①施設内消費額 (温泉・温浴施設・エステ・リラクゼーション)	収支報告書の収入合計額(ただし、助成交付金(休業協力金含)が計上されている年度はその金額を除く)
②施設外地域消費額	令和5年来訪者聞き取り調査から「立ち寄った場所で使用する金額」の平均額を算出(3,100円)し、利用者数を乗じた。

推計年度：現在、年間収支報告書資料(収支内訳資料を含む)がある年度(平成26年度以降)のうち、基本的に年間を通じて営業した年度及び新型コロナウイルス感染症拡大等による来客者の大きな変動がなかった年度として、平成26年度、平成27年度、平成28年度、平成30年度、令和元年度の5ヶ年の推計を実施した。

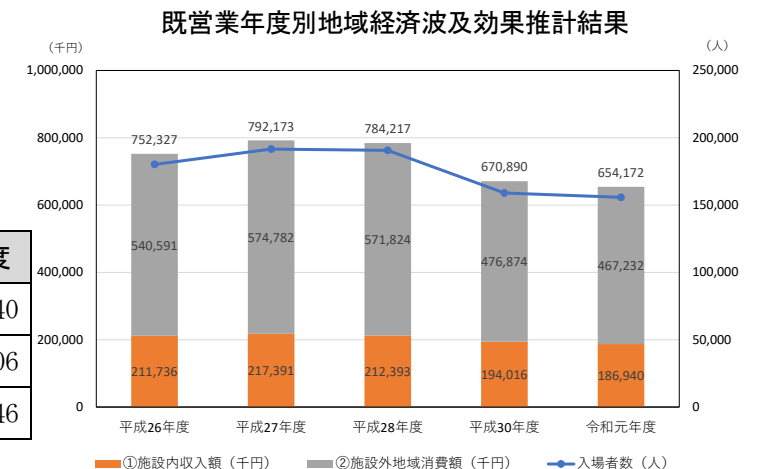
利用者数：推計年度の利用者数は下記のとおりである。(人)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成30年度	令和元年度
180,197	191,594	190,608	158,958	155,744

(3) 推計結果

地域経済波及効果は、**6.7億円～8.1億円**と推計される。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成30年度	令和元年度
①施設内収入額(千円)	211,736	217,391	212,393	194,016	186,940
②施設外地域消費額(千円)	558,611	593,941	590,885	492,770	482,806
合計(千円)	770,347	811,332	803,278	686,786	669,746



2. 施設改修後の経済波及効果推計

(1) 推計方法

現施設における経済波及効果との比較できるよう、下記のとおり同じ推計方法を適用する。

市内における経済波及効果を見るため、狭義の経済波及効果として、①当該施設における消費額と②当該施設外での地域消費額を合わせた額を算出する。

(2) 推計の前提条件

来訪者が消費する財・サービスは、下記の通り設定した。

項目	設定方法
①施設内消費額 (温泉・温浴施設・エステ・リラクゼーション)	収支報告書の収入合計額（ただし、助成交付金（休業協力金含）が計上されている年度はその金額を除く）
②施設外地域消費額	令和5年来訪者聞き取り調査から「立ち寄った場所で使用する金額」の平均額を算出（3,100円）し、利用者数を乗じた。

推計対象：本調査で設定したシナリオ1～4の推計を実施した。

利用者数：シナリオ別の入場者予測数は下記のとおりである。 (人)

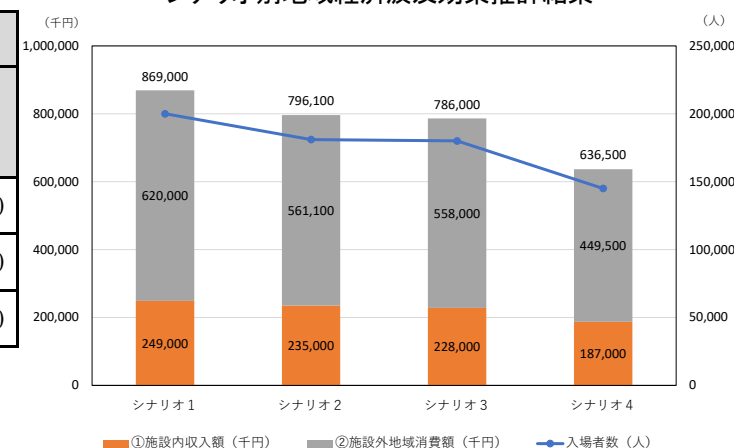
シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4
200,000	181,000	180,000	145,000

(3) 推計結果

地域経済波及効果をシナリオ別にみると、利用者数の推計値が最も多いシナリオ1では8.7億円、最も少ないシナリオ4では、6.4億円と推計される。

	シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3	シナリオ4
基本方針（プールの有無/新規機能イメージ）	プール廃止 (浴槽の多様化)	プール廃止 (サウナ・岩盤浴)	プール存続 (屋外空間充実)	プール廃止 (休憩スペース・スタジオ)
①施設内収入額（千円）	249,000	235,000	228,000	187,000
②施設外地域消費額（千円）	620,000	561,100	558,000	449,500
合計（千円）	869,000	796,100	786,000	636,500

シナリオ別地域経済波及効果推計結果



3. 社会的効果

貨幣価値に換算できない社会的効果として、下記のような効果が想定される。

(1)市民の健康増進

- ・体温上昇による血行促進、代謝力のアップや免疫力アップ等の効果が期待される温浴や、プールでの水泳により、体力づくりやリハビリができるなど、市民の健康増進が期待される。その結果、高齢者の要介護状態の抑制や予防老人医療費の低減につながる。



出水市「十三奉行温泉」温泉サロン
(温泉施設を活かし、体操×温泉、グランドゴルフ×温泉のプログラムを企画)

(2)市民生活の質向上

- ・温泉やプールの利用による健康増進に加え、日常の中で特別な時間を過ごすことによる生活の楽しみ、意欲の向上、幸福度の高まり等市民のQOLの向上が期待される。



香取市「おふる café かりんの湯」
(心身ともにリラックスして過ごすことができる温泉+αの空間)

(3)コミュニティの形成

- ・施設内での利用者間の会話など、利用者間での交流も生まれ、当該施設を拠点としたコミュニティの形成が期待される。



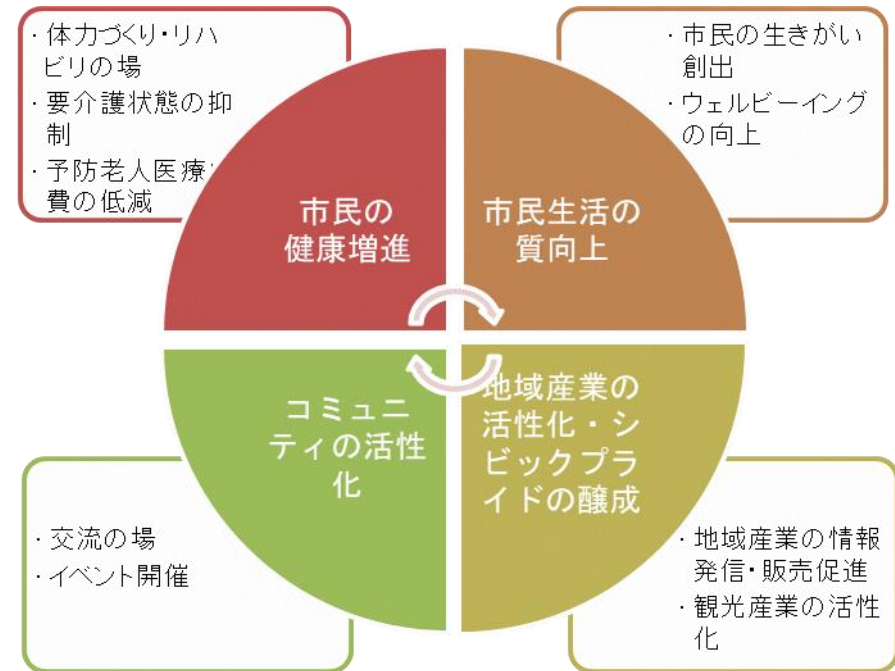
足立区「堀田湯」
(銭湯再生とともに地域と連携した取組を実施)

(4)市内事業者との連携の場

- ・地場産品(野菜等)の販売や市内事業者によるサービス事業の実施など、地域の事業者が参画し、情報発信や販売、マーケティング等に利用できる拠点としての機能が期待される。



長野県東御市「御牧乃湯」おんせん de マルシェ@御牧乃湯
(温浴施設前で地元事業者が参加するマルシェを企画)

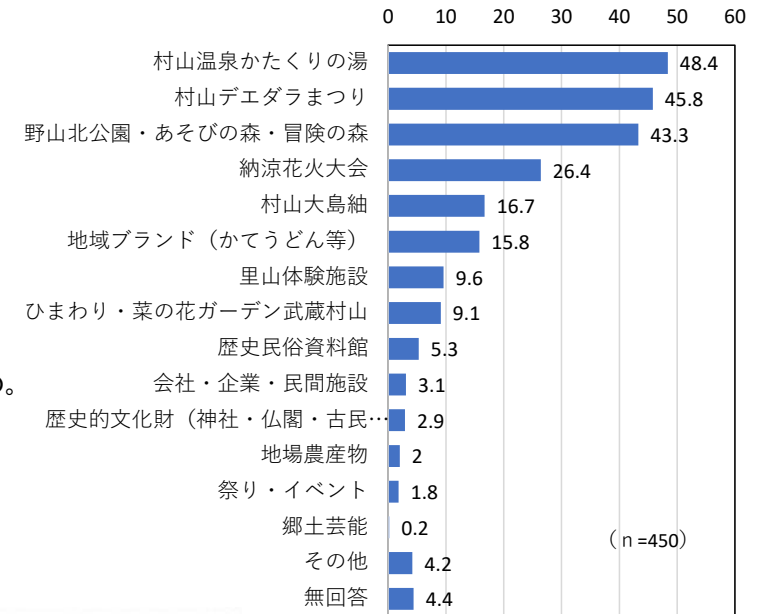


(5)本市の観光資源として価値向上・シビックプライドの醸成

- 平成 30 年度武蔵村山市民意識調査※1 結果をみると、武蔵村山市の観光資源としてイメージするものとして、村山温泉「かたくりの湯」が 48.4%と、最も高くなっている。
- また、経路検索サービスにおいて目的地を検索された回数を表す「経路検索条件データ」の平成 30 年のデータをみると、村山温泉「かたくりの湯」については、交通手段が自動車の場合の検索回数ランキングは「イオンモールむさし村山」に次いで第 2 位、交通手段が公共交通機関の場合は第 3 位となっている。
- 以上により、当該施設は、武蔵村山市を代表する観光施設として、来街者を呼び込む資源であり、市のイメージアップやブランド力形成に重要な役割を担っており、また、市民にとってはシビックプライドの醸成につながる資源といえる。

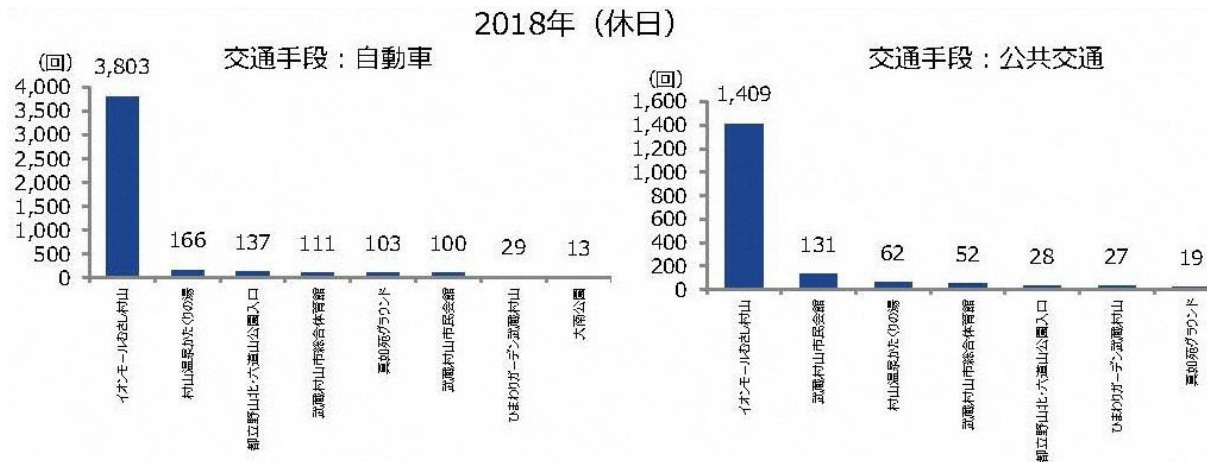
※1 市全域を調査地域とし、満 18 歳以上の市民から住民基本台帳に基づき 2,000 人を抽出、アンケート調査を実施したもの。

武蔵村山市の観光資源としてイメージするもの (%)



出典:平成 30 年度市民意識調査報告書
(武蔵村山市)

観光施設等を目的地とした検索回数ランキング



【出典】株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

【注記】 検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。下記条件に全て該当した場合にのみ表示。

- 施設分類が、観光資源、宿泊施設や温泉、広域からの集客が見込まれるレジャー施設や商業施設に該当
- 年間検索回数が自動車は50回、公共交通は30回以上

出典:「経路検索条件データ」(株式会社ナビタイムジャパン)